

## 二 蟬

I

皆さんいらつしやい、蟬を見ませう。昨日ね、竿にモチをつけて蟬をまりました。この蟬はチーチーつて鳴くあれですよ。モチ竿についた時でも鳴きましたよ。やはり蟬も掴へられるのが嫌だつたのでせう、夢中になつて鳴きました。

蟬の脚、何本あるでせうねお勘定してみませう。一本、二本、三本、四本—六本ありましたね。ちよつと障つて見て頂戴な、如何う？少し痛い様な気がしたでせう、ギザ／＼があるのですね。何故かしら、さう蟬が木の枝に止つたりする時、こり落ちない様にしつかり止つて居られる様になつてゐるのでせうね。

皆さん蟬は何處で鳴くのか御存じ？せみは、お腹に太鼓を持つて居ます、お祭の時の太鼓の様に真中が空つぽであの周りの皮の様なのが丁度こゝのミコころなのです。

さうしてせみはこの太鼓を獨りで叩きます。チーチーだのミン／＼だのカナ／＼、オーシツク／＼等いろ／＼に鳴くのがありますすけれご皆それは太鼓が少しづゝ違ふからなのです。

鳴く蟬はお父様せみ、を、す、つて言ひます。ほら時々皆さんが折角掴へたのにだまつて居て、ちつとも鳴かないのがあるでせう。あれはお母様せみで啞なのですよ、せみのお母様はめ、す、つて言ひますが鳴けないのです。太鼓がならないのですね。

こゝのミコころ、お腹に長い棒の様ながあるのでせう、これが蟬のお口です。随分面白いお口ね。これを蟬は木の皮のミコころへぐつミ入れておいしい甘いおつゆを吸つて生きて居ます。さあもう可哀相ですから



籠の中で少し休ませて上げませう。蟬がお眠りするか、歩き出するか、見て居ませう。

II

この間、蟬を御一緒に見ましたね。逃がして上げてから如何して居るでせうね。

今日はせみの大きくなるまでのお話をしませう。お母様蟬、あの啞のせみね、あの蟬が木の皮のまごころに卵を生みます。卵は直きに小さな蟲になつて獨りで木の根のまごころへ下りて行き、土の中にもぐつてしまひます。蟲は土の中で木の根からおいしいおつゆを吸つてだん／＼大きくなります。何べんも皮を脱いで大きくなります。まごころの上へ出て來ます。ほら皆さん時々木の下に小さな穴があるのをごらんになつたことがあるでせう？あのこれ位の穴がせみの出て來た穴ですよ。

穴から出て來たせみは木の枝の上でもう一ぺん皮を脱いで、そろこんなからを残してこの間の様な蟬になるですよ。(ぬけがらを見せる)

卵から立派なせみになる迄、まあ十七年もかゝるのがあるさうです。ごんなに早いのも十年かゝるのですつて。ですからあの今鳴いて居るせみは皆さんよりお兄さんですね。

中には先生達が赤ちやんの頃、卵だつたのもあるでせう。

それでも蟬は鳴ける様になつてからほんの二三日しか楽しさうに太鼓をたゝいてお歌を歌つて居られないのです。そうして死んでしまふのです。可哀相ですね、でも蟬は本當に楽しさうにして居ますね。あのお庭の櫻の木でもプラタナスでもあんなに元氣に鳴いて居ます。うれしさうですね。ほらあんなに。

